

何で「勉強」するの？

かつて学級担任をしていた頃、ある子供が「先生、何で勉強しないといけないの？」と訊いてきました。その時、突然だったので「あなたの将来にとって役立つからよ。」と、今から思えばありきたりの答えしか言えませんでした。しかし、それ以来、喉に刺さった骨のように、どこかにひっかかるような思いをもち続けていました。

最近、もう自分の教員人生も終わりになりかけているのですが、今度訊かれたらこう答えようという言葉が見つかりました。それは、「とてもいい質問だ。君は、本気でその答えを見つけないのだね。だとしたら、まず勉強することだ。この答えは、真剣に勉強したものにしか見つからないことになっている。しかも、答えは一つとは限らないよ。」というものです。自分で「答え」を導き出すしかない、それが結論です。

そして、「勉強」を「仕事」に置き換えると「まず仕事をする事だ。真剣に仕事をしたものにしか、その意味は分からない。」となりますし、「子育て」ならば、「まずは子育てをすることだ。真剣に子育てをしたものにしか、その意味は分からない。」と言うこともできます。

つまり、ものごとを始める前に、「こうすればこうなる」という結果が確実に分かっている、それがマイナスの結果であることが予想されれば誰も手を出しません。しかし、私たちの身の回りには、「やってみなければ分からない」ということのほうが、実は多いのです。

だとすると、どんな勉強や仕事を選ぶにしても、せめて「努力すること自体が楽しい」ということを基準にしてはどうでしょう。日々の努力そのものが、幸福な気分をもたらすなら、きっと他から評価される日が来るかもしれません。

それに、たとえ他から高い評価が得られなくても、自分に対して「努力したけど、報われなかった」という言葉だけは、口にしないですむはずですよ。